

不登校・引きこもりと発達障害

－ 治療的アプローチの探索と集団療法のワークショップ －

期 日：2019年 2月23日(土)・24日(日)

受講対象：教諭、養護教諭、保護者、学校関係者、保育、相談に関わる方、および関連の専門家、又は、これらの専門家を目指す方

定 員：80名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料：12,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団

会場：明治安田こころの健康財団 講義室 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

(JR山手線、西武新宿線、東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分)

*日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」
承認番号:W29111
承認期間:平成29年7月1日～平成34年6月30日

「Hikikomori」は今や国際的に認知されつつあります。それは日本が引きこもりの若者をかかえることができる経済力を持つ先進国になったことと、それを下支えする社会と家族の有りようが無縁ではありません。しかし少子高齢化が進みつつある現状を考えると、そのために消費される費用と、一方で彼らの自立によってもたらされる潜在的な社会資源は膨大なものがあります。また、多く子どもたちが学校で経験するいじめとそれによる不登校は、彼らのその後の成長と社会的自立に大きな影を落としています。

私たちは過去10年にわたって、大人の発達障害者を対象とする専門外来とデイケア、治療的アプローチのための研究と実践に取り組んできました。発達障害が社会的に認知されるに従って、受診者総数はすでに7千人を超えました。これまで相談する窓口を持たなかった家族からの相談が飛躍的に増えています。その結果、発達障害者のかなりの人たちがいじめと不登校、引きこもりの当事者であることが明らかになってきました。もちろん引きこもりのすべてが発達障害者ではありません。しかし、彼らは医学的にも特定できる集団であり、きちんと診断して社会的スキルを訓練し、可能であれば薬物治療も試みて、「障害者から納税者に」できるのではないかと、私たちは考えつつあります。本企画では、引きこもりの側と発達障害の側から、この問題に対する解決策を模索し、実践する道筋を探っていく機会にと期待しています。それぞれのお立場から、積極的に討論に加わっていただければと思います。

【加藤 進昌】

【プログラム】

日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
2月23日(土)	13:00~14:00	発達障害はここまでわかった ～引きこもりとの接点を求めて～	昭和大学発達障害医療研究所 所長 公益財団法人神経研究所附属晴和病院 理事長 加藤 進昌
	14:15~15:15	精神疾患バイオマーカー開発 ～脳画像バイオマーカーとそれに基づくニューロフィードバック開発～	晴和病院医師・公益財団法人神経研究所 研究員 山田 貴志
	15:30~16:30	引きこもりの多面的理解と治療 ～心理社会モデルと生物学的モデルの融合～	九州大学精神科 講師 加藤 隆弘
	16:30~17:00	質疑応答	司会:加藤進昌 / 出席講師
2月24日(日)	9:00~9:30	発達障害の診断と治療的アプローチ ～障害者から納税者へ～	(前 掲) 加藤 進昌
	9:45~10:45	不登校と引きこもりへのアプローチ ～大学保健センターとデイケアをつなぐ～	昭和大学発達障害医療研究所 講師 太田 晴久
	11:00~12:00	青春期の精神疾患の疫学とその支援 ～意欲の障害を中心に～	東京都医学総合研究所 心の健康プロジェクト プロジェクトリーダー 西田 淳志
	12:00~13:00	昼 食 (各自おとりください)	
	13:00~15:20 (適宜休憩)	ワークショップ (プログラムに参加して/ 就労を通して当事者から)	昭和大学附属鳥山病院 精神保健福祉士 五十嵐 美紀 昭和大学附属鳥山病院 臨床心理士 横井 英樹 デイケアプログラム 参加者
15:30~16:00	全体討論	司会:加藤進昌 / 出席講師	

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。